

だいち

地域に生きる

編集者：蓮田太陽の里

「だいち」広報委員会

〒349-0101

埼玉県蓮田市黒浜1045-1

TEL 048-764-3881

FAX 048-764-7788

H P <http://minuma-hukushi.com/>



書 関口忠司

節分

2月3日は節分ということだまきをしました。ダンボールで出来た鬼に豆をぶつけました。豆を思いつきり投げる仲間もいれば、鬼に豆を渡そうとしてくれる仲間もいました。「鬼は外は言わなくて、福を家に呼ぶために、福は内っていうんだよ」と教えてくれる仲間もいました。

豆まきには豆を鬼にぶつける事により、邪気を払い無病息災を願うという意味合いがあるそうです。みんなたくさん豆を投げてくれたので、今年も大きな病気をする事なく過ごせると思います。

高橋 茂奈美(職員)



巻頭コラム

みぬま実践検討集会

2月18日(日)に埼玉県民活動総合センターにて第19回みぬま福祉会実践検討集会が開催されました。助言者に峰島厚氏、白石恵理子氏、品川文雄氏、赤松英知氏をお招きしました。第一分科会は、白岡太陽の家にじの山岸一さんの『嫌いではないけどつらくなってしまう現実を乗り越えた先に…』第二分科会は地域活動支援センターたいようの田口裕子さんの『人と関わりを通して、自分の世界を広げていくYさんの実践から』第三分科会はアトリ工輪の赤羽幸治さんの『誰も寄せ付けないような姿から、他者に対し優しい気持ちをもてるようになったRさん』第四分科会は川口太陽の家の仙田竜大さんの『お父さんや、お兄さんを見返してやるから僕の作品をみてになったMさん』の4レポートの発表があ

りました。午前中は4レポートの概要発表、午後は各分科会に分かれてグループ討議がありました。私は第二分科会に参加をし、『安心して自分の思いや意思を表現できること、そのことによる変化』『思いや意思を支援表現するための支援』『どうして人は生きるのか』という議題でグループ討議をおこないました。討議の中では、違う事業所の職員が集まり、普段の生活の中での実践の話や、職員が仲間に対する思いを聞くことができ改めて、仲間の障害や課題が違っても、仲間の生活の豊かさを思う気持ちはどの事業所でも同じだということを感じました。

小田嶋 里佐(職員)



成人・古希を祝う会

2月15日、1月の大雪の影響で延期されていた成人・古希を祝う会が開催されました。今年度は川口より2名の仲間が成人を迎え、地活より1名の仲間が古希を迎えられました。

同じ施設に通う仲間たちからは、「これからも一緒に仕事頑張ろう」「や」
「身体には気をつけようね」など、それぞれ仲間に向けたお祝いの言葉がたくさんかけられていました。そして最後はみぬまらしく歌のプレゼントで終わり、とても賑やかで素敵なお会となりました。

来年度大地からは、戸谷百花さんと北原稔浩さんが成人を、嶋修二さんが古希を迎えます。仲間たちにとって大切な人生の節目として、また来年も素敵な会にしていければと思います。

面来 愉(職員)

初任職員交流会

2月23日、みぬま福祉会では初めとなる初任職員交流会が行なわれました。法人では入職1年目に新任職員研修を実施していますが、それ以降はそれぞれの施設に配属され、他施設の職員や同期と関わる機会は減ってしまいます。

今回、初任職員交流会に参加したことで、他施設で働いている同期と久々に顔を合わせることができ、日々の中で大変に思っていること、その中でも楽しいと思えることなど同期だからこそ共感し合えることを話し合うことができました。日常の業務に追われ、やりきれなさや、やりがいを見失うこともあるかと思えます。そんな不安を打ち消す為にもこのような場がこれからも必要になってくると感じました。

北隅 友輔(職員)

「戦場ぬ止み」上映会&報告会

2月3日、みぬま福祉社会分会主催「戦場ぬ止み」の上映会を行いました。みぬま福祉社会分会は、①労働条件の

改善②公的福祉制度の拡充③同じ思いを持つものと手を取り合い活動する。

④憲法9条を守り、平和で安心できる暮らし作りに最大限の努力をしていくという、4つの方針を掲げて活動しています。

平和で安心できる暮らし作りという方針において、私たちに何ができるかを考えてきた中での上映会企画となり、当日は20名ほどが集まりました。職員に加え、家族や仲間の参加もありました。

沖縄県辺野古の埋め立てに対しての地元住民の思いや葛藤、命をかけて美しい海を守る姿、平和に対する思いがひびひびと伝わってくるものだった。また、上映会後には昨年12月7日に

辺野古キャンプ・シュワブゲート前テント村で開催された『障がい者 辺野古の集い』に参加した大地の大浦職員の報告会を行いました。

テント村での運動に参加したことに加え、抗議船に乗ったことや沖縄県民の思いに触れての感想を写真とともに報告してくれました。

今回の上映会&報告会は、知ることや学ぶこと、考えること、触れること、伝えること等、1つ1つを積み重ねていくことで、平和な暮らしに対して私たちにできることは何かを具体化していくための第1歩となったのではないかと思います。

金子 知幸(職員)



防犯訓練

1月10日(水)岩槻警察署 生活安全課の方をお招きして防犯訓練が行われました。最初に、神奈川県やまゆり園事件のことで、小学校に不審者が侵入している状況のことなどについてお話しがありました。

次に実技訓練があり、警察官が不審者役になり、正面玄関から「俺の子を出せ、子どもを返せ!」と怒鳴りながら建物内に侵入してくる。職員は声を掛け制止するが

無視され、払いのけられてしまう。応援を呼び110番通報後、男性職員3〜4人で椅子やすまた、モップを使い追い詰めるが、不審者はポケットからナイフ(玩具)を取り出し暴れ始める。職員は、何とかナイフ

取り上げ確保しようとするが、ポケットからもう一本のナイフを取りだし、再び暴れ始める。といった緊迫する状況の中、現場では素早い行動と連携が求められる訓練となりました。訓練後、職員からは、相手はどんな人物か分からない中、大きな声をあ

げ暴れる体験は恐怖だった。男性3人がかりでも実際は取り押さえることは出来なかった。聞いてみるとやってみるのでは大きな違い。誰がどんな対応をするべきか日頃から訓練が必要/ナイフを一本取り上げたらポケットからもう一本のナイフが出てきた。想定外だった。職員は何人か負傷していた。等の悲鳴があがりました。

今回の訓練から敷地内で不審者を見かけたら①声を掛けること。出来るだけ遠くから声を掛けること。②出来るだけ早い行動をとり、応援を呼ぶ。ためらわず110番通報をする。③放送機器などを使い不審者がどこにいるか把握し対処する。仲間を安全な場所に避難させる。④不審者が仲間につかないよう時間稼ぎをし、鍵のある部屋に閉じ込める等、が求められました。

植村 勉



蓮田市民公開講座

2月24日、蓮田市障がい者団体連絡協議会主催の市民公開講座がハストピアで開催されました。「障害のある人と共に生きる社会〜障害者権利条約をてがかりに〜」というテーマで、立正大学社会福祉学部准教授の中村尚子先生がお話をして下さいました。当日は約80名の方が参加され、講座後の質疑応答では活発な意見交換がされました。

また、蓮田市内の障害者施設、事業所の施設紹介やパネル展示、製品の販売がされ、たくさんの参加者が仲間たちの作品を手にとってくれました。

中村 智恵（職員）



バレンタインデー

2月の一大イベントといえは・・・そう、バレンタインです。毎年楽しみや緊張でソワソワしている仲間たちもたくさんいるのではないのでしょうか。

今年は女性の仲間みんなでチョコプリンを作りました。ちょうどバレンタインの時期に大地では風邪が蔓延していて、14日に作って渡すことは出来ませんでした。ちょっと遅れたバレンタインデーということ、思わぬ時期にもらうことができ、喜びも増したのでは？と思います。メッセージカードも一枚一枚、日頃の感謝の気持ちを込めて一生懸命に書いていました。それぞれの仲間の想いが、しっかりと届いていたら良いなあと思います。

面来 愉（職員）

厨房より

来年度から、はすの実作業所へ昼食の配達を行なう事になりました。はすの実では業者のお弁当を食べていますが、味付けが単調で飽きてしまっていたり、あたたかい食事が食べられないため、給食の提供を始める事にしました。試験的に2月は週1回、3月は週2回の配達を行なっています。仲間の反応は上々で喜んでくれています。

大地の中も、仲間の食事やシャインの子どもたちの食事等、気をつける所がたくさんあって忙しいですが、厨房職員みんなで力を合わせて頑張ろうと思います。

野田沢 千恵（栄養士）



職員の復帰の挨拶

こんにちは。寒さもようやくゆるんできたようです。掃除の仕事で世話になっております高木です。昨年6月始めから12月まで半年余り体調不良のため、お休みさせていただきました。十分に休養し体調も良くなりました。今年1月より再び大地で仕事させていただいています。復帰して最初のお昼の時間に皆さまに挨拶に伺った際、職員の方々、仲間みんなに温かく迎えていただき本当にうれしかったです。こうしてまた大地で働けることは私にとって本当にありがたいことだと思っております。トイレ掃除はちょっとした重労働ですが、皆さんに喜んでいただけるよう体調に気をつけながら頑張っていきたいです。これからもどうぞよろしくお願いします。

高木 暁子（清掃パート）

情勢を共有しよう

障害者権利条約の締結にあたって

厚生労働省の報酬改定検討チーム

は、12月までに47団体のヒアリング

を含めて16回開催した。ここまでの障

害福祉サービスの人員、設備・運営基

準に関する省令改訂に対する意見を述

べることにする。(一部抜粋)

(1) 指定就労定着支援について

障害のある人の一般就労への定着を

支えることは、とても重要なことであ

る。しかし、この間の「もうけ本位」

で就労支援制度を悪用し、多くの障害

のある人を大量解雇した問題は、事業

者にも問題があるが制度に欠陥がある。

そもそも障害に伴うさまざまな障壁を

取り除き、労働参加を福祉と一体的に

保障する原則と合理的配慮の制度が確

立していないなかで、事業者の参入を

広げた現行法の不備・欠陥に問題があ

支援センターの拡充である。

(2) 指定自立生活援助支援について

地域生活を支える体制と仕組みが不

十分なもので、期限付きの地域生活移

行支援は困難である。具体的には家事

援助・身体介護などの居宅介護事業は、

障害支援区分で対象と時間が制約さ

れてしまう。移動支援事業は地域生活

支援事業に位置付けられ、市町村の格

差が大きい。むしろ生活体験の機会や

場を保障し、それを支える仕組みが求

められる。

(3) 日中サービス支援型指定共同生

活援助について

この事業は、「重度対応型共同生活

援助の新設」に応じた提案と思われる

が、そもそも重度者支援として期待さ

れる機能は、手厚い夜間支援体制や休

暇時支援の確保、医療・看護体制の充

実などである。今回の提案は、地域で

ホームではなく、「小規模入所施設」

といえるような内容であり、とうてい

障害のある人と家族が望んでいる「重

度対応型グループホーム」とは異なる。

(4) 共生型サービスについて

各種の共生型サービスについては、

「各基準該当サービスに做った基準を

設ける」とされているが、前述の「も

うけ本位」のみの目的による事業者の

参入を助長・拡大してしまうことは明

白である。報酬改定検討チームで示さ

れた資料では、基準該当サービス事業

者の指定を受けても、共生型サービス

の場合、都道府県の指定事業者との報

酬格差を補うとしていることから、

そうした危惧は拭えない。

(5) 指定計画相談支援について

報酬改定の「基本方向」では、「相

談支援専門員が1月に実施するサービ

ス利用支援等の標準件数を設定する」

している。そもそも障害支援区分の判

定で支援の種別と量が確定してしまう

現行制度のもとでのサービス等利用計

画は、障害のある人の人生や生活の支

援計画として相応しい内容といえない。

そうした中で、標準件数のみを定める

ことは、現場で生じている、さまざま

な問題の解決策になり得ない。また短

期入所の利用日数を計画相談の段階で

絞り込む提案には、反対である。

きょうさん 理事長 西村 直



待望の新刊!!

その花が咲くとき

障害者施設「川口太陽の家」の仲間たち

発行:サンパティック・カフェ
定価:本体 1,800円 + 税
208頁 オールカラー

まつもと とおる

松本 哲 著

社会福祉法人みぬま福祉会 総合施設長

「そう言えば、あなたの幸せってなんだと思う？」
と聞いてみると、彼の手が止まり、しばらく考えたあと、
「みんなと、こうしていることかな」という答えが返ってきました。
(1章「みんなとこうしていること」より)

目次より

1章

咲いた花たち 咲けなかった花たち =生・喜・悲・共=

つながった	おはようの挨拶
この子を産んで初めて褒められた	選挙
一番好きで一番怖い	みんなとこうしていること
優しくしないで	俺みたいな暴れる子
こんな体だよ、こんな体でも	しんゆう

(抜粋)

障害者福祉施設「川口太陽の家」に出会って35年。重い障害のある仲間たちと出会い格闘した日々を、仲間たち、職員たちとのエピソード20数編で綴るエッセー的实践書。併せてみぬま福祉会の成り立ち、理念、工房集に関わり続ける美術家の中津川浩章氏の寄稿による、みぬま福祉会の価値を補足。



松本 哲 (まつもと とおる)

1958年 東京生まれ。大学卒業後、生活協同組合職員を経て、
1983年 神奈川県内の通所施設に勤務。
1985年 無認可作業所「太陽の家」、
知的障害者通所更生施設「川口太陽の家」指導員、
1992年 「川口太陽の家」所長。
2017年 「社会福祉法人みぬま福祉会」総合施設長、
法人事務局長。
埼玉県発達障害福祉協会副会長 他

太陽の家に勤務以来、障害の重い人たちの労働や発達保障について取り組んでいる。

この本は「仲間」とは何かを、実践をとおして「芯」から教えてくれる傑作です。万人必読の書です。

大田 堯(教育研究者)

なかまと

みんなの

輪



まりこの 素敵な日常

きょうされんのあつまりにいきました。
おんがくのれんしゅうをしました。



ゆかいた したい

かぜのよみ、いせつひはんをたべ
ました。
いせつひはんより、みんなとたべ
るほうがおもしろい。



おすすめ

このイベント

ボランティア 募集

ウエス・古本・バザー品の

『大地』では、地域の皆さまに以下のご協力をお願いしています。

①ボランティア募集

館内の清掃や洗濯物の整理、ちょっとした身の周りのお手伝いや、外出の付き添いなどのボランティアさんを募集しています。

②ウエスの材料、バザー品（古本、雑貨）

仲間達が仕事で使う、ウエス製品の材料→綿100%の衣類、タオル、シーツ。また、バザーなどで販売するための古本（文庫本、マンガ）、雑貨（家庭で不要になったまだ綺麗で使える物）を募集しています。是非ご協力お願いします。

①ボランティア担当（面来、藤井）

②ウエス、古本担当（野村、北隅）

ありがとう
ございました！



高橋 孝雄 様
岩上 めぐみ 様
(順不同)

29年2月度に寄付して下さった方
ありがとうございました



近野茂治の
今月のイイネ！



綱引き
楽しかった！



大地3月の予定

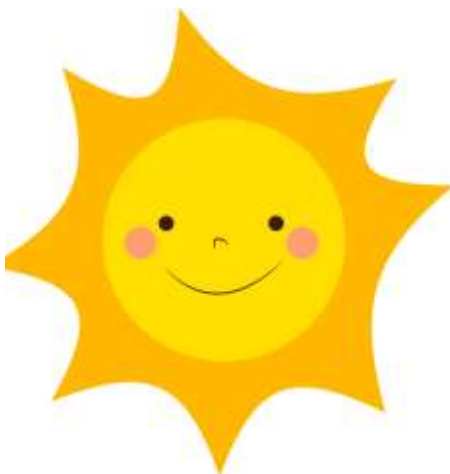
3日	(土)	4 担当総括会議
7日	(水)	生活保護違憲訴訟公裁判
20日	(火)	ケース総括会議
21日	(水)	第2回埼玉集会 守ろう憲法25条
22日	(木)	ケース総括会議
23日	(金)	ケース総括会議
29日	(木)	新年度会議

課業より

こんにちは！年度末になり、課業でも1年の振り返りを行いました。どの分野も仲間同士で応援をし合って作業をしていたり、一緒に作業をしたり、仲間へのアドバイスをしたり...と仲間同士が助け合って仕事をしている報告がたくさんあったのが印象的でした。

職員は夜勤や遅番、受診の同行などで仲間の仕事に毎日はいれないのですが、たまに入ると仲間達から教えてもらうことが多く、頼もしく感じています。そんな仲間達の姿から学ぶことがたくさんあります。学んだことを活かして来年度も充実した仕事を送れるように職員一同も日々精進していきます！

島田 明音（職員）



<広報だいち> 広報委員会（職員） 面来・北隅・安藤・岡部・小原
（仲間） 田村・神永・土屋莉恵・関口・近野